

(5) 今年度の保健所における啓発活動を通して得られたその他の知見・考察

- ・ ポスター・パンフの配布貼付に際し、昨年度と異なり、本年度は継続事業であるため、地域の受け入れが改善された（昨年度に比べ地域住民の危機意識が高まり、協力的であった）。
- ・ 今年度は学校における予防教育実施のための研修会を学校の教師および保健所の保健師に対し、同時に実施したが、両者の連携が強化され、情報交換、授業におけるチームティーチングなどがおこなわれた。
- ・ これまで“縦割り”的に実施されていた保健所内の業務が、今回の予防啓発事業を通して横の連携がさらに拡大された。（例：一部保健所ではエイズ対策を行っている「健康づくり課」と母子保健を担当している「子育て家庭課」さらに教育委員会が協働で啓発事業にあたった。）（協働の拡大）
- ・ 昨年度の啓発活動を通して、A 県少年保護育成条例の中に若年者にコンドーム譲渡販売を制限する下記の条例が存在することがわかった。本条例の存在は、コンドーム普及促進を阻害する要因となるため、条例撤廃に向けた働きかけが必要である。県知事、県教育委員会に条例撤廃の必要性を提示したが、現在のところ条例撤廃への動きは進展していない。

第9条の2：避妊用品自動販売機業者及び避妊用品に係る自動販売機管理責任者（以下「避妊用品自動販売機業者等」という。）並びに自動販売機によらず避妊用品を販売することを業とする者は、避妊用品を少年に販売し、又は贈与しないよう努めるものとする。
- ・ 今回の対策は若者をターゲットとするものであったが、若者に限らず、大人（保護者等）も情報を希望していることが明らかとなり、大人用の文字の大きなパンフレットの要望が出された。

(6) 保健所介入密度別評価

目的

各保健所別の啓発活動の違いによる介入効果の差異を調べる目的で評価を行った。

方法

事前事後どちらも調査に参加した 33 校のうち、学校内で我々が企画したモデル授業に全く暴露されていない学校群（15 校：通常授業および無介入）で、保健所の活動程度の差異による介入効果を比較した。対象となった 15 校は A 県全域にわたっており、5 保健所管内に所在していた。5 保健所は、予防啓発活動の程度（人口あたりのパンフ/ポスター配布・貼付枚数）により、高介入地域（H）、中介入地域（M）、低介入地域（L）の 3 種類に分類した。学校の分布は、高介入地域に 10 校（1034 人）、中介入地域に 2 校（680 人）、低介入地域に 2 校（457 人）であった。これらの学校群で、保健所プロジェクト実施前と実施後にアンケート調査を行いその結果を比較した。

結果

①ポスターとパンフレットの暴露率（表 9、表 10）

ポスターとパンフレットの暴露率を地域別に比較した。ポスター暴露率は、男女合わせると低介入地域では 49.1%、中介入地域では 45.8%、高介入地域では 71.4%であった。また、パンフレット暴露率は低介入地域では 1.9%、中介入地域では 17.1%、高介入地域では 17.8%とどちらも活動の程度に比例して上昇する量-反応関係を示していた（いずれの関係も $p < 0.001$ ）。

表 9.保健所の介入程度別のポスター曝露率の比較

	L				M				H			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
見た	170	47.0	38	61.3	198	47.6	104	42.8	239	59.8	482	79.0
見なかった	171	47.2	23	37.1	197	47.4	135	55.6	143	35.8	118	19.3
不明	21	5.8	1	1.6	21	5.0	4	1.6	18	4.5	10	1.6
合計	362	100	62	100	416	100	243	100	400	100	610	100

表 10.保健所の介入程度別のパンフレット曝露率の比較

	L				M				H			
	男	%	女	%	男	%	女	%	男	%	女	%
もらった	6	1.7	2	3.2	52	12.5	61	25.1	57	14.3	123	20.2
もらわなかった	343	3.6	60	96.8	355	85.3	180	74.1	330	82.5	482	79.0
不明	13	3.8	0	0.0	9	2.2	2	0.8	13	3.3	5	0.8
合計	362	100	62	100	416	100	243	100	400	100	610	100

②知識の正解率の比較

エイズ/性感染症関連の知識の正解率の平均を介入の前後で比較した。保健所における介入程度は昨年度からの継続が多く（注：例えば、高介入地域は昨年度も高介入地域であったため、昨年度から既に多くの啓発資材に曝露されベースラインの知識が上がっていた可能性もある）、介入前の知識レベルが各保健所群で異なっていたため、単純に前後の差だけでは比較できないが、介入後の平均正解率は低介入地域では45.3点（3.7点上昇後）、中介入地域では49.6点（7.4点上昇後）、高介入地域では54.1点（4.8点上昇後）と、介入レベルに応じて、正解率が上昇する傾向が観察された（表11参照）。項目ごとでは、多くの項目で低、中、高地域間の違いは統計学的に有意であった。

表11. 保健所介入程度による知識正解率の比較

	低介入地域			中介入地域			高介入地域		
	事前	事後	差	事前	事後	差	事前	事後	差
n	465	431		682	665		1076	1060	
若者HIV増加	62.4	70.3	7.9	69.9	81.5	11.6	74.8	81.1	6.3
若者STD増加	71.6	74.9	3.3	72.9	80.6	7.7	81.9	84.2	2.3
長崎中絶増加	51.0	61.5	10.5	59.1	69.2	10.1	67.1	75.9	8.8
クラミジアは性病	43.9	47.6	3.7	32.8	45.4	12.6	51.6	58.1	6.5
長崎はクラミジア高	15.9	21.3	5.4	18.5	29.6	11.1	26.5	37.2	10.7
HIVとSTD相互作用	24.3	24.4	0.1	21.4	29.3	7.9	24.7	28.2	3.5
口～性器にSTD	21.5	24.6	3.1	19.1	31.3	12.2	22.6	30.3	7.7
性器から口にSTD	29.9	32.3	2.4	32.4	43.3	10.9	36.2	41.3	5.1
STDは必ず有症状	26.2	33.6	7.4	25.1	36.8	11.7	36.2	45.1	8.9
STDは不妊の原因	46.7	46.4	-0.3	39.7	43.0	3.3	52.0	53.9	1.9
STDは子宮癌原因	26.0	25.3	-0.7	23.0	25.1	2.1	26.1	26.6	0.5
ピルは避妊薬	72.7	76.1	3.4	73.3	74.6	1.3	75.6	76.8	1.2
ピルでHIV・STD予防	38.1	40.4	2.3	45.3	45.0	-0.3	48.3	49.3	1.0
膣外射精は避妊×	42.2	45.9	3.7	40.8	45.4	4.6	46.5	49.8	3.3
安全日の避妊効果	52.7	55.5	2.8	59.7	64.4	4.7	69.5	74.2	4.7
	41.7	45.3	3.7	42.2	49.6	7.4	49.3	54.1	4.8

その他

本稿では調査結果は示していないが、コンドーム使用などの実際の行動変容については、介入地域間で差は認められなかった。

◆保健所における介入によるその他の影響

今回の高介入地域の保健所の中で最も人口の多い保健所（H4）で、HIV検査数、相談件数の顕著な上昇が確認された。HIV検査件数を2001年、2002年、2003年で比較すると、相談件数が109件、162件、227件と3年間で2.1倍に増加し（注：A県内のH4以外の地域における相談件数の推移は544件、611件、686件と1.3倍の増加）、またHIV検査件数も44件、58件、73件と1.7倍の上昇が確認された（注：A県内のH4以外の地域におけるHIV検査件数の推移は399件、437件、424件と1.06倍の増加）。受検者の性別年齢別内訳を見ると、特に増加しているのは、10～20代女性であった。“パンフレットを見て検査にきた”という受検者もいたことから、今回の予防介入が影響している可能性もあると考えられる。

表12. H4保健所の相談件数およびHIV抗体検査件数の年次推移

年度	相談件数			HIV抗体検査件数
	電話	来所	計	
2001年度	34	75	109	44
2002年度	35	127	162	58
2003年度	71	156	227	73

表13. HIV抗体検査年齢別推移（男性）

年度	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	不明	計
2001年度		13	6	2	2		23
2002年度		15	14	7	5		41
2003年度	1	15	13	3	5		37

表14. HIV抗体検査年齢別（女性）

年度	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	不明	計
2001年度		9	4	3	4	1	21
2002年度	1	14	2				17
2003年度	3	25	4	2	2		36

図1. H4保健所の相談件数の推移
(2001年の件数を1とした割合)

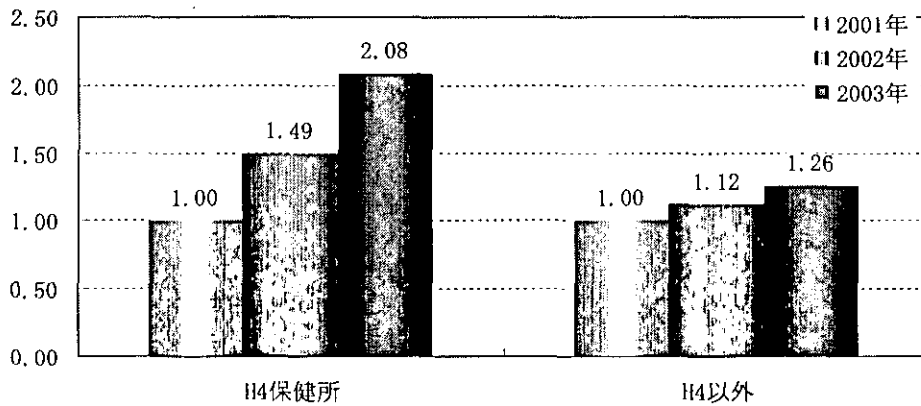
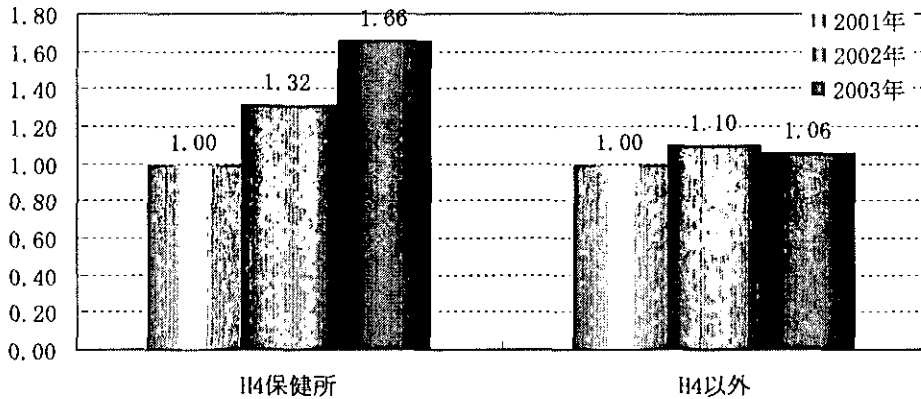


図2. H4保健所のHIV抗体検査件数の推移
(2001年の件数を1とした割合)



1-② 保健所プロジェクトの結果の要約

●結果（プロセス評価）

（1）啓発物（ポスター・パンフ）への曝露状況

1. ポスターへの曝露：7～8割（校内曝露が最多）（昨年度より↑↑↑）
2. パンフへの曝露：3～4割（校内曝露が最多）（昨年度より↑）

*入手3ヶ月後→4～5割は継続所持

（2）波及効果

- ・入手者の3割はひとに見せる→友人、交際相手、家族

●保健所地域別結果

介入程度の異なる保健所地域別に、介入効果の差異が観察された。介入密度の上昇に伴い、ポスター・パンフレットへの曝露率、エイズ/性感染症関連知識の正解率が上昇する傾向が見られた。

●その他の影響

介入密度の最も高い保健所で、HIV検査行動、相談行動の顕著な増加が観察された。

1-③ 高校生モデル授業プロジェクト(学校ベースの予防介入)

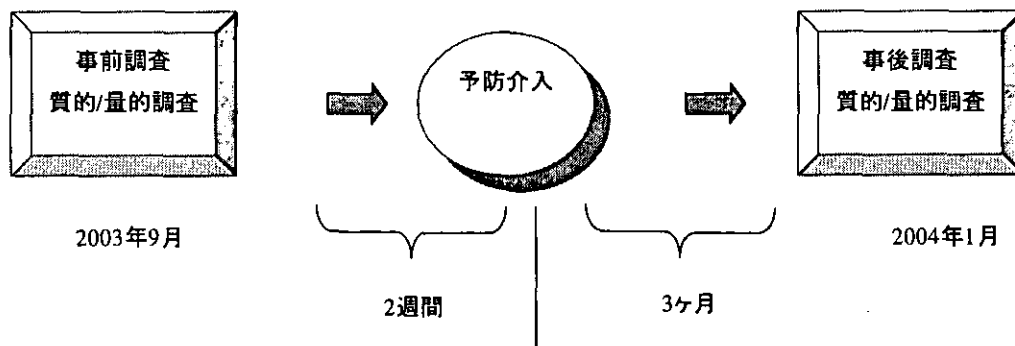
集団レベルの介入として、モデル授業プロジェクトを実施した。本プロジェクトは下記の研究デザインに沿って実施された。

◆準実験的研究デザイン

準実験的介入デザインを用い、県下全域の予防介入の評価を学校単位で行った。**Pretest-posttest with comparison group (比較群付前後比較試験)**：介入前(2003年9月)と介入後(2004年1月)に質問紙調査(量的調査)とフォーカスグループインタビュー(質的調査)を実施した。研究期間中に学校間に見られた教育内容の違いを利用して、最も介入レベルの低い(もしくは無介入の)学校群を比較群として、介入効果を評価した。評価項目は、HIV/STD 関連知識、セックス受容度、望まない性行為に対して拒否する自信、コンドームに対する態度、コンドーム使用意図、コンドーム関連行動(購入、使用)とした。

準実験的研究デザイン(quasi-experiment)

Pretest and posttest only design with comparison group



◆プロジェクトの流れ

- ① 2003年9月 事前調査(高校2年生)
 - ② 2003年10月 予防教育担当者育成のための研修会
 - ③ 2003年10月
 - ④ 2003年11月
 - ⑤ 2003年12月
 - ⑥ 2004年1月 事後調査(高校2年生)
- } 予防教育実施期間

* 調査実施の詳細に関しては前述。

◆**研修会**：モデル授業実施に際しては、授業実施を可能にするための研修会を実施した。

実施日：2003年10月、6時間の研修を2日間

対象：保健所の職員(エイズ予防を担当している保健師：出前授業予定者)、調査に参加した学校の養護教諭、保健体育教諭、家庭科教諭など予防教育を担当する可能性のある人

目的：昨年度および今年度の調査結果に基づいて企画された授業案および教材を提供、説明し、予防教育担当者を育成する。（*保健所職員用と学校関係者用を別々に行なった）

研修会の特徴：独自開発したビデオ、パワーポイント教材の提供。各保健所および各学校からの参加者はそれぞれ自分の地域および学校の調査結果を持って参加。我々が提供する A 県全体に対する平均的な授業案をさらに自分の学校の調査結果を踏まえて各自修正し、各学校に合わせた授業案を作成する。

研修会の構成：（6 時間コース）

- ① 講義（第 1 部）：A 県の若者の性関連の疫学情報の提供+エイズ STD の基礎知識
- ② 講義（第 2 部）：A 県高校 2 年生の知識・性意識/性行動の実態
* 予防授業実施のための環境整備：保護者や他の教諭/管理職に対する説明のしかたのマニュアル
- ③ 講義（第 3 部）：実際の授業実施方法（導入方法の紹介、ビデオの説明のしかた、レクチャーの実例紹介（パンフレットの説明のしかた、質問への答え方など、結び）
- ④ グループワーク：同じ特徴をもつ学校群（地域が近い、学校の種類が似ているなど）に分かれ、各学校で授業を行なう際の授業案を各グループで作成する。
- ⑤ 作成した授業案を発表し、参加者相互の意見交換と研修会講師からの助言。

◆モデル授業

対象：A 県内高校 2 年生男女

授業実施者：教師（養護教諭、保健体育教諭、家庭科、担任）、保健所のエイズ予防担当保健師（保健所からの出前授業として派遣）、両者のチームティーチング

授業内容開発時の要点：リスク認知の向上（リスクを自分のこととして捉える：personalization）を最終ゴールとして下記の 3 点に配慮した。

- ① **調査に基づく内容：**その地域/学校の生徒の知識・意識・価値観に合わせた授業内容
- ② **地域性の強調：**自分の住んでいる地域の疫学情報の提供（リスクを身近に感じさせる）
- ③ **STD/中絶の情報：**エイズよりも身近な情報（特にエイズを強調しない性の予防教育）
- ④ **誰にでもリスク：**ネットワークの概念を伝える

授業メッセージ要点

- ① 自分にもリスクがあること（上記①②③④の内容から理解を促す）
- ② セックスを急がないこと（ゆっくりと人間関係を築くこと）→初交年齢を遅らせる
- ③ 将来セックスをするときには、相手に関わらずコンドームを使用すること
（*注：昨年度の調査結果より、コンドームの実践教育を強調しなくてもある程度は予防行動が促進されることが示唆されたため、今年度は、コンドームの必要性は説明するが、特に具体的なコンドーム教育は強調しない方法で行なった。但し生徒から希望があれば実施する場合もある。）

授業構成：授業は 3 部からなり、

- ① **導入（アイスブレイキング）：**ゲーム、クイズによるリラクシング。後の講義部分との関連づけを行い、吸収力を高める。また生徒が使用している用語および性の規範/意識の確認を行い、後の授業の参考にする。
- ② **パワーポイント（20 分間）：**WYSH パンフレット内容に沿った Q&A 形式のパワーポイント。前述の名刺サイズの A 県パンフ（次ページ参照）と大型スクリーンを使ったパワーポイント発表により、地域限定・対象校限定の情報を提供し、さらに高校生に共通する誤解

や質問に答える形式とした。授業の最後にパンフレット配布し家庭での復習も可能とする。

- ③ **ビデオ上映 (10分間)**: ビデオ内容は、第1部では中絶とはどのような医療行為であるかを胎児の成長過程とともに示した。さらに第2部では、クラミジアを治療しないで放置すると女性の体内でどのようなことが起こるかをコンピューターグラフィックを用いた映像で示し、症状がなくても放置すると危険であることを伝えた。ビデオの画像と音声だけでは重要な情報を聞き流す恐れがあるため、特に強調したい情報はビデオ上に文字として加え記憶にとどまりやすいように配慮した。これら1部と2部のビデオを上記パワーポイントの途中で上映し、ビジュアル効果によりインパクトを高めた。
- ④ **参加型グループワーク**: 導入や予防方法など友達同士のグループにわかれ、一方的な講義形式でない全員参加型の授業とした。特にどうしたら予防できるかに関しては、top-downに大人が指導するのではなく、生徒たち自分達なりの予防策を考えてもらい、議論を通して、適切と思われる予防策を一緒に考える形式とした。

介入の評価方法

本年度、A県で実施された様々なレベルの予防介入の効果を、A県全域の高校2年生で評価した。調査参加校33校を、学校内の介入内容（各学校の養護教諭にアンケートを行なった）により、下記のように6つの学校群に分類した。学校群1（G1）は、モデル授業（我々のデザインした教材を用いて、保健所職員あるいはその学校の先生が研修を受けて実施した授業）と通常授業を実施した学校群、学校群2（G2）は、モデル授業のみを行なった学校群、学校群3（G3）は、モデル授業の中の一部（パワーポイントとビデオを使用した授業を行なったがパンフレットは配布しなかった）を実施した学校群、学校群4（G4）は、パンフレットを配布したがモデル授業は行なわず通常授業を実施した学校群、学校群5（G5）は通常授業だけを行なった学校群、学校群6（G6）はこの期間中（2003年9月～2004年1月）は、性の予防教育を特に行わなかった学校群であった。介入の評価は、介入が何も行われなかったG6を比較のベースにした。

表1. 学校群別予防介入内容の内訳

	G1	G2	G3	G4	G5	G6
学校数	3	4	4	6	11	4
生徒総数	885	357	705	956	1836	334
モデル授業	○	○				
パンフレット/ビデオ			○			
パンフレットのみ				○		
通常授業	○			○	○	

(1) 知識 (knowledge)

エイズ/性感染症に関する知識項目の正解率を介入の前後で比較した。G1の[モデル授業群+通常授業]群における正解率の平均値は、介入により、男子では22.3%、女子では23.2%の上昇が見られた(表2)。G2の[モデル授業]群でも、知識の平均値が、男子19.3%、女子15.6%の上昇が観察された(表3)。G3の[パワポ+ビデオ]群では、男子25.9%、女子25.0%正解率が上昇した(表4)。G1~G3までは約20%近い知識上昇が見られた。G4の[パンフのみ+通常授業]群では、男子11.2%、女子12.0%と約10%程度の上昇にとどまった(表5)。G5の[通常授業のみ]群では、男子5.5%、女子7.4%と上昇率が10%未満であった(表6)。さらにG6の[この期間学内では何も教育を行なわなかった]群の正解率は、男子3.6%、女子3.2%とわずか数%の上昇は、対応のあるt検定によれば、G1-G6については全て統計学的に有意であり($p < 0.001$)、またG7では、男子では有意であったが($p = 0.003$)、女子では有意ではなかった($p = 0.24$)。

表2. HIV/STD関連知識の正解率の変化 (グループ1: モ授業+通常授業)

知識項目 (パンフ関連)	男子			女子		
	事前	事後	差	事前	事後	差
n	406	400		479	460	
1 若者HIV増加	79.3	88.0	8.7	76.0	93.5	17.5
2 若者STD増加	82.3	89.3	7.0	88.5	95.9	7.4
3 長崎中絶増加	68.2	85.5	17.3	82.0	96.1	14.1
4 クラミジアは性病	44.6	84.3	39.7	65.1	93.9	28.8
5 長崎はクラミジア高	27.3	63.5	36.2	38.8	82.0	43.2
6 HIVとSTD相互作用	26.6	48.8	22.2	38.2	72.6	34.4
7 口~性器にSTD	33.0	58.8	25.8	38.4	66.1	27.7
8 性器から口にSTD	47.3	69.8	22.5	53.2	82.4	29.2
9 STDは必ず有症状	36.5	62.8	26.3	49.3	79.6	30.3
10 STDは不妊の原因	44.3	60.3	16.0	59.7	81.5	21.8
11 STDは子宮癌原因	33.5	49.5	16.0	31.9	57.2	25.3
12 ピルは避妊薬	78.6	83.5	4.9	77.7	91.5	13.8
13 ピルでHIV・STD予防	46.8	61.0	14.2	52.4	74.8	22.4
14 膣外射精は避妊×	45.6	65.0	19.4	56.2	78.9	22.7
15 安全日の避妊効果	19.7	77.3	57.6	85.6	94.6	9.0
平均	47.6	69.8	22.3	59.5	82.7	23.2

表3. HIV/STD関連知識の正解率の変化 (グループ2: モ授業)

知識項目 (パンフ関連)	男子			女子		
	事前	事後	差	事前	事後	差
n	65	63		292	279	
1 若者HIV増加	80.0	95.2	15.2	84.2	92.5	8.3
2 若者STD増加	89.2	95.2	6.0	89.0	91.8	2.8
3 長崎中絶増加	73.8	92.1	18.3	84.2	93.5	9.3
4 クラミジアは性病	84.6	92.1	7.5	72.3	90.0	17.7
5 長崎はクラミジア高	41.5	74.6	33.1	32.2	67.0	34.8
6 HIVとSTD相互作用	27.7	42.9	15.2	29.5	59.5	30.0
7 口~性器にSTD	38.5	71.4	32.9	26.0	49.8	23.8
8 性器から口にSTD	56.9	87.3	30.4	41.1	73.1	32.0
9 STDは必ず有症状	46.2	69.8	23.6	51.7	71.0	19.3
10 STDは不妊の原因	49.2	61.9	12.7	66.1	77.1	11.0
11 STDは子宮癌原因	29.2	47.6	18.4	36.0	58.1	22.1
12 ピルは避妊薬	83.1	84.1	1.0	91.8	82.8	-9.0
13 ピルでHIV・STD予防	9.2	73.0	63.8	61.0	77.1	16.1
14 膣外射精は避妊×	64.6	71.4	6.8	67.5	79.6	12.1
15 安全日の避妊効果	84.6	88.9	4.3	86.3	90.7	4.4
平均	57.2	76.5	19.3	61.3	76.9	15.6

表4. HIV/STD関連知識の正解率の変化 (グループ3: パンフ+ビデオ)

知識項目 (パンフ関連)	男子			女子		
	事前	事後	差	事前	事後	差
n	186	178		519	491	
1 若者HIV増加	66.7	87.6	20.9	80.0	94.5	14.5
2 若者STD増加	69.9	86.0	16.1	87.5	95.1	7.6
3 長崎中絶増加	65.6	82.6	17.0	80.5	94.9	14.4
4 クラミジアは性病	39.8	79.2	39.4	51.4	88.0	36.6
5 長崎はクラミジア高	26.9	66.3	39.4	24.7	72.9	48.2
6 HIVとSTD相互作用	17.7	59.6	41.9	23.1	67.0	43.9
7 口～性器にSTD	28.0	61.2	33.2	22.0	66.6	44.6
8 性器から口にSTD	34.9	70.8	35.9	38.9	76.8	37.9
9 STDは必ず有症状	29.6	57.9	28.3	43.2	74.1	30.9
10 STDは不妊の原因	37.6	67.4	29.8	58.0	79.2	21.2
11 STDは子宮癌原因	18.3	57.9	39.6	24.7	60.3	35.6
12 ビルは避妊薬	63.4	69.7	6.3	75.5	77.0	1.5
13 ビルでHIV・STD予防	36.0	51.1	15.1	48.0	64.4	16.4
14 膣外射精は避妊×	44.1	54.5	10.4	49.9	66.4	16.5
15 安全日の避妊効果	50.0	65.7	15.7	79.2	84.5	5.3
平均	41.9	67.8	25.9	52.4	77.4	25.0

表5. HIV/STD関連知識の正解率の変化 (グループ4: パンフ+通常授業)

知識項目 (パンフ関連)	男子			女子		
	事前	事後	差	事前	事後	差
n	386	370		570	514	
1 若者HIV増加	73.6	87.3	13.7	79.8	87.9	8.1
2 若者STD増加	84.7	90.3	5.6	88.9	91.4	2.5
3 長崎中絶増加	74.9	85.7	10.8	81.4	93.2	11.8
4 クラミジアは性病	63.7	77.0	13.3	56.8	68.9	12.1
5 長崎はクラミジア高	40.4	62.4	22.0	34.4	54.9	20.5
6 HIVとSTD相互作用	26.7	42.7	16.0	26.7	37.4	10.7
7 口～性器にSTD	37.6	57.3	19.7	24.2	33.3	9.1
8 性器から口にSTD	50.5	62.2	11.7	41.2	51.4	10.2
9 STDは必ず有症状	37.8	52.2	14.4	47.5	59.9	12.4
10 STDは不妊の原因	56.0	63.5	7.5	60.0	67.1	7.1
11 STDは子宮癌原因	30.6	41.9	11.3	29.8	36.8	7.0
12 ビルは避妊薬	80.6	80.3	-0.3	83.5	84.0	0.5
13 ビルでHIV・STD予防	57.8	65.4	7.6	5.6	61.7	56.1
14 膣外射精は避妊×	55.7	60.8	5.1	56.5	64.0	7.5
15 安全日の避妊効果	64.8	74.9	10.1	80.5	85.0	4.5
平均	55.7	66.9	11.2	53.1	65.1	12.0

表6. HIV/STD関連知識の正解率の変化 (グループ5: 通常授業)

知識項目 (パンフ関連)	男子			女子		
	事前	事後	差	事前	事後	差
n	976	860		860	834	
1 若者HIV増加	69.1	76.3	7.2	75.2	84.2	9.0
2 若者STD増加	74.5	78	3.5	82.1	87.9	5.8
3 長崎中絶増加	55.2	66.5	11.3	75.0	80.8	5.8
4 クラミジアは性病	42.4	50.3	7.9	49.8	57.4	7.6
5 長崎はクラミジア高	21.1	30.7	9.6	25.2	33.7	8.5
6 HIVとSTD相互作用	24.8	25.7	0.9	21.5	27.9	6.4
7 口～性器にSTD	21.9	30.4	8.5	18.6	26.1	7.5
8 性器から口にSTD	31.1	38.9	7.8	36.2	41.8	5.6
9 STDは必ず有症状	29.9	39.8	9.9	34.0	43.9	9.9
10 STDは不妊の原因	46.0	45.4	-0.6	50.1	55.4	5.3
11 STDは子宮癌原因	26.1	26.4	0.3	24.1	24.8	0.7
12 ビルは避妊薬	71	74.1	3.1	83.8	85.3	1.5
13 ビルでHIV・STD予防	41.7	43.3	1.6	51.0	53.7	2.7
14 膣外射精は避妊×	41.3	46.4	5.1	21.5	52.5	31.0
15 安全日の避妊効果	51.2	58.0	6.8	78.0	81.2	3.2
平均	43.2	48.7	5.5	48.4	55.8	7.4

表7. HIV/STD関連知識の正解率の変化 (グループ6:教育なし)

知識項目 (パンフ関連)	男子			女子		
	事前	事後	差	事前	事後	差
n	249	239		85	81	
1 若者HIV増加	63.10	72.40	9.30	64.70	85.20	20.50
2 若者STD増加	69.50	69.50	0.00	76.50	87.70	11.20
3 長崎中絶増加	38.20	50.60	12.40	65.90	79.00	13.10
4 クラミジアは性病	31.70	36.00	4.30	50.60	56.80	6.20
5 長崎はクラミジア高	13.30	20.10	6.80	24.70	43.20	18.50
6 HIVとSTD相互作用	25.70	30.10	4.40	23.50	30.90	7.40
7 口～性器にSTD	27.30	31.40	4.10	28.20	32.10	3.90
8 性器から口にSTD	36.10	38.10	2.00	42.40	39.50	-2.90
9 STDは必ず有症状	19.30	24.70	5.40	36.50	46.90	10.40
10 STDは不妊の原因	37.30	39.70	2.40	57.60	51.90	-5.70
11 STDは子宮癌原因	23.30	24.70	1.40	27.10	22.20	-4.90
12 ビルは避妊薬	54.20	56.10	1.90	77.60	72.80	-4.80
13 ビルでHIV・STD予防	36.90	35.10	-1.80	52.90	40.70	-12.20
14 膈外射精は避妊×	39.80	40.20	0.40	52.90	46.90	-6.00
15 安全日の避妊効果	51.80	52.30	0.50	84.70	77.80	-6.90
平均	37.8	41.4	3.6	51.1	54.2	3.2

介入レベルの差異による学校群別の知識の正解率の介入前後の差を図1に、介入後の知識の正解率の比較を図2に示した。図に示されるように、G1、G2、G3群のモデル授業実施群で約20%の正解率の上昇が観察されたが、パンフ配布だけの学校群では知識の上昇は10%前後にとどまり、さらに通常授業のみおよび無介入校では数%の上昇にとどまり、モデル授業により知識が上昇することが示された。また、介入後の知識レベルを比較すると、モデル授業実施群では、70～80%の正解率であったが、通常授業および無介入群では40～50%の正解率であり、大幅な知識格差が確認された。

図1. 学校群別知識正解率の上昇率の比較

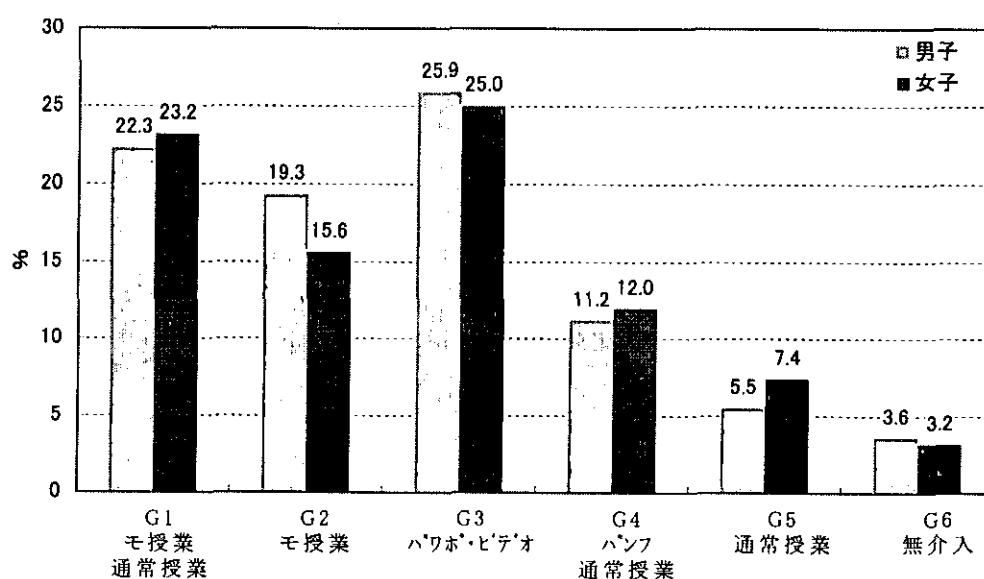
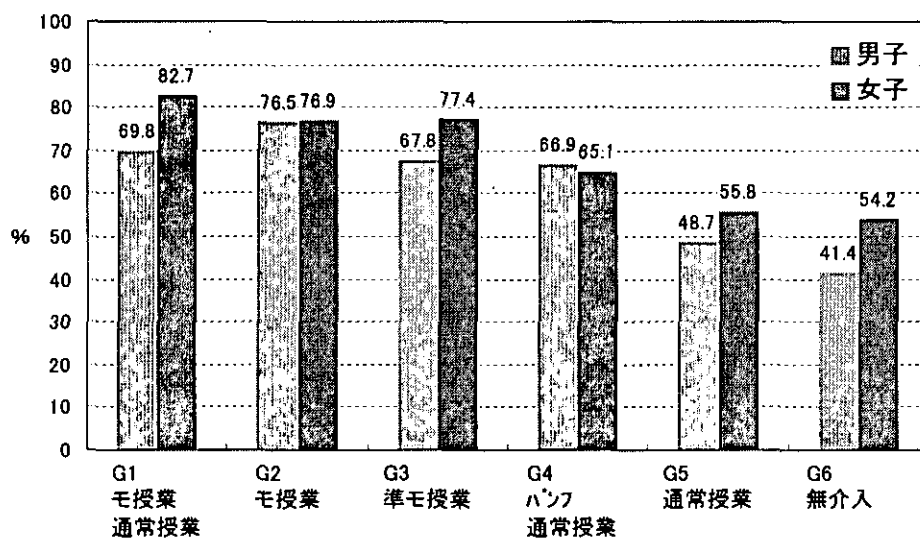


図2. エイズ/STD関連知識の正解率(介入後:高校2年生)



(2) 予防行動関連

◆コンドームに対する肯定的意識/態度 (attitude)

性経験の有無に関わらず全ての高校2年生に、介入の前後でコンドームに対する意識/態度を尋ねた。「コンドームを使う男性は相手を大切にしていると思う」「コンドームを使いたいと思う女性は健康管理ができていると思う」「コンドームを持ち歩くのは遊びなれた人だと思われる」「大切な人とはコンドームを使いたいと思う」という質問に対し、同意した人の割合(%)を性別介入群別に表8に示し、介入前後での差を図3に示した。いずれの差も統計学的には有意ではないが、G1~G3のモデル授業群でコンドーム肯定意識/態度が5%前後上昇、無介入群G6では、逆にコンドームに対する肯定意識が減少し、通常授業群G5では変化はほとんど観察されず、介入効果に対応する傾向を示した。介入後のコンドームに対する肯定的意識/態度の割合を図4に示す。それによると、介入群(G1~G3)では、約6~7割が肯定的態度を持っていたが、通常授業群および無介入群(G5~G6)では5~6割と約10%程度の差が存在した。

表8. コンドームに対する肯定意識の増加率の比較

		男子			女子		
		事前	事後	差	事前	事後	差
G1	人数	406	400		479	460	
	使用男	62.1	67.8	5.7	81.6	82.6	1.0
	使用女	63.1	68.5	5.4	67.8	71.1	3.3
	遊び人	42.6	45.5	2.9	51.6	52.6	1.0
	大切相手	66.0	69.3	3.3	68.5	73.3	4.8
	平均	58.5	62.8	4.3	67.4	69.9	2.5
G2	人数	65	63		292	279	
	使用男	73.8	73.0	-0.8	74.7	82.4	7.7
	使用女	72.3	76.2	3.9	66.4	73.1	6.7
	遊び人	52.3	49.2	-3.1	46.6	49.5	2.9
	大切相手	80.0	76.2	-3.8	70.5	78.1	7.6
	平均	69.6	68.7	-0.9	64.6	70.8	6.2
G3	人数	186	178		519	491	
	使用男	58.1	57.3	-0.8	79.0	80.4	1.4
	使用女	54.3	55.1	0.8	70.7	73.1	2.4
	遊び人	33.9	37.1	3.2	39.7	44.4	4.7
	大切相手	58.6	59.6	1.0	68.0	73.7	5.7
	平均	51.2	52.3	1.1	64.4	67.9	3.6
G4	人数	386	370		570	514	
	使用男	65.5	68.1	2.6	84.9	81.1	-3.8
	使用女	65.5	69.2	3.7	73.0	74.7	1.7
	遊び人	42.5	47.8	5.3	44.7	47.7	3.0
	大切相手	64.2	66.2	2.0	71.9	74.5	2.6
	平均	59.4	62.8	3.4	68.6	69.5	0.9
G5	人数	976	939		860	834	
	使用男	63.2	64.3	1.1	79.4	74.6	-4.8
	使用女	62.3	64.3	2.0	69.0	69.5	0.5
	遊び人	40.7	43.2	2.5	39.4	43.9	4.5
	大切相手	59.7	60.5	0.8	67.0	67.3	0.3
	平均	56.5	58.1	1.6	63.7	63.8	0.1
G6	人数	249	239		85	81	
	使用男	62.7	63.6	0.9	75.3	72.8	-2.5
	使用女	58.6	58.2	-0.4	68.2	70.4	2.2
	遊び人	34.5	40.6	6.1	38.8	38.3	-0.5
	大切相手	64.3	58.6	-5.7	71.8	64.2	-7.6
	平均	55.0	55.3	0.2	63.5	61.4	-2.1

注：表中略語、使用男＝「コンドームを使う男性は相手を大切にしていると思う」、使用女＝「コンドームを使いたいと思う女性は健康管理ができていると思う」、遊び人＝「コンドームを持ち歩くのは遊びなれた人だと思われる」、大切相手＝「大切な人とはコンドームを使いたいと思う」

図3. コンドーム肯定率の変化(高校2年生)

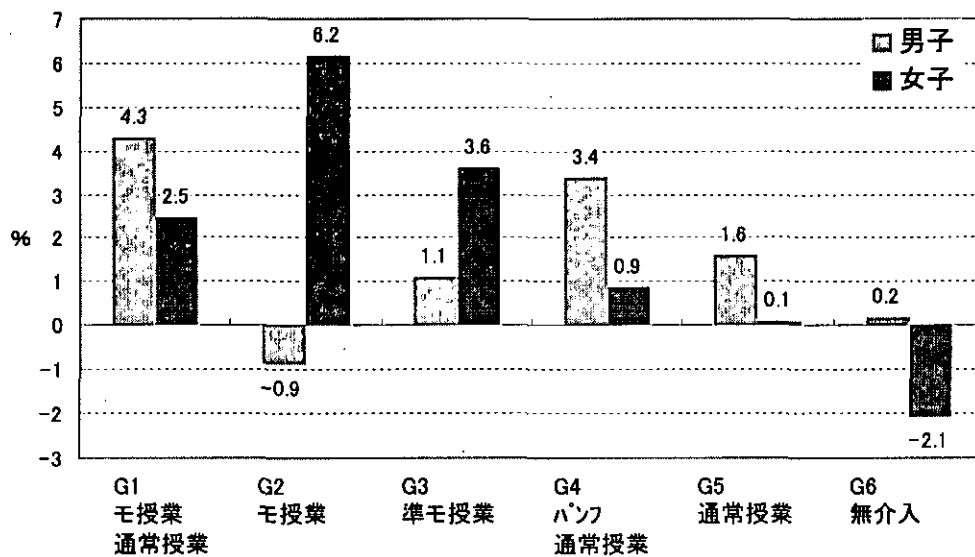
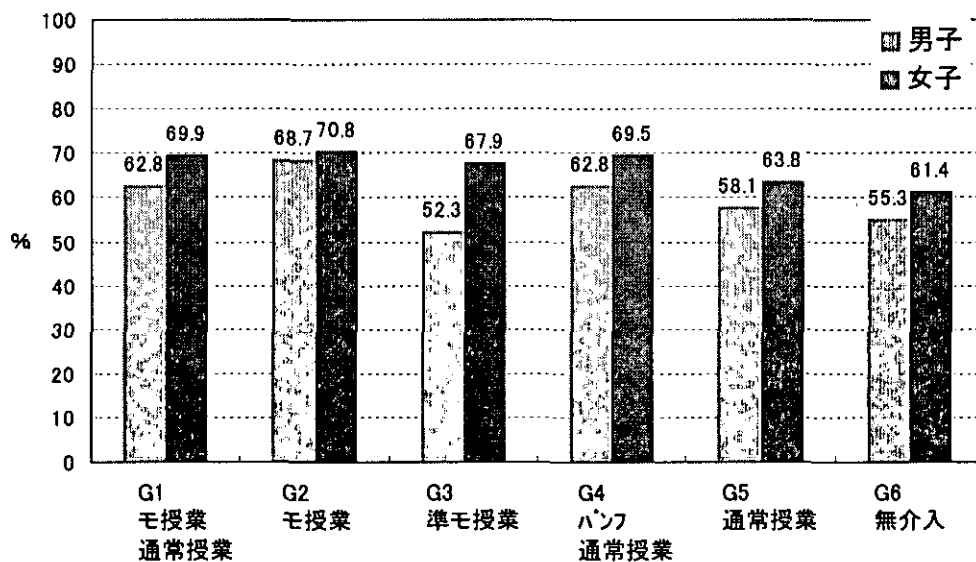


図4. コンドーム肯定率(介入後:高校2年生)



◆過去3ヶ月のコンドーム使用意図 (intention)

性経験のある高校2年生に、過去3ヶ月間のコンドーム使用意図を尋ねた。使用意思のある群として「毎回使おうと思った」+「使おうと思うことが多かった」の割合(%)を性別介入群別に介入の前後で比較したものを表9に示す。そのうち、介入前後の差を性別介入群別に図5に示した。G1-G3のモデル授業群 (G1:モデル授業+通常授業、G2:モデル授業、G3:準モデル授業[パンフレット配布なし]) では、男女6群のうち4群で、3~18%の使用意図率の上昇が観察されたが、G6の非介入群では男女ともコンドーム使用意図の減少、特に男子では15%の減少が観察され、介入効果に対応する傾向を示した。一方、G5の通常授業のみの学校群では男子では5%程度の上昇であったが、女子は減少していた。さらに、介入後のコンドーム使用意図を性別介入校別に図6に示した。それによると、過去3ヶ月間のコンドーム使用意図を持っていた人の割合はG6の無介入校では約5割、G5の通常授業群で6割、G1-G3のモデル授業群では7~8割と、介入効果に対応する傾向を示し、女性の群間差は有意であった (男 p=0.14、女 p=0.04)。なお、表9-11につちえは、分析対象が性交経験者に限られ、そのために群によっては、サンプルサイズが極めて少なくなるため、変化率 (差) が不安定になりやすく、解釈には注意を要する。

表9. 過去3ヶ月間のコンドーム使用意図の変化の比較

		男子			女子		
		事前	事後	差	事前	事後	差
G1	人数	61	72		129	134	
	毎回+多	75.5	77.8	2.3	74.4	70.1	-4.3
G2	人数	16	18		49	49	
	毎回+多	81.3	77.8	-3.5	73.4	79.6	6.2
G3	人数	19	29		117	111	
	毎回+多	47.4	65.5	18.1	72.7	75.7	3.0
G4	人数	55	67		140	123	
	毎回+多	74.5	68.7	-5.8	71.4	72.3	0.9
G5	人数	183	176		212	221	
	毎回+多	59.0	64.8	5.8	64.1	63.8	-0.3
G6	人数	25	34		23	25	
	毎回+多	68.0	53.0	-15.0	52.2	52.0	-0.2

*「毎回+多」:「毎回使おうと思った人」+「使おうと思うことが多かった」人の割合 (%) を示す

図5. 過去3ヶ月間のコンドーム使用意図の変化(高校2年生)
(「毎回使おう+使おうと思うことが多い」人の割合%)

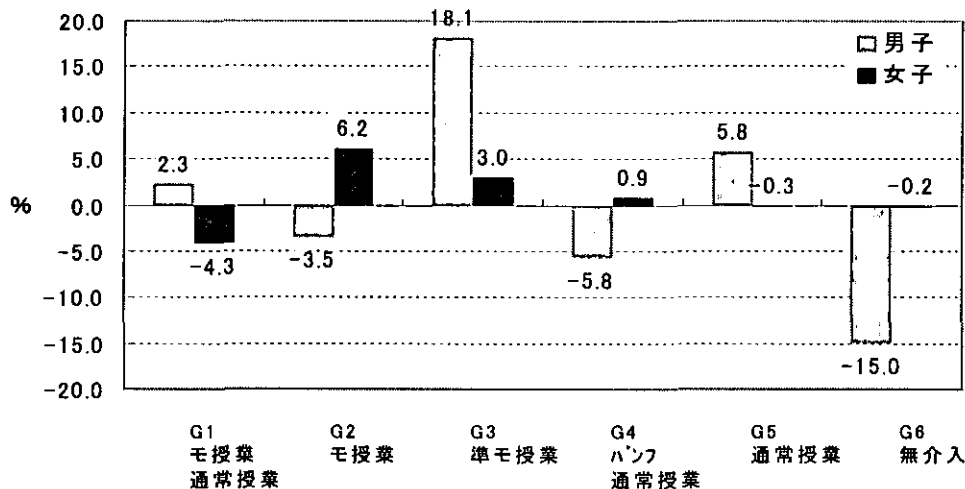
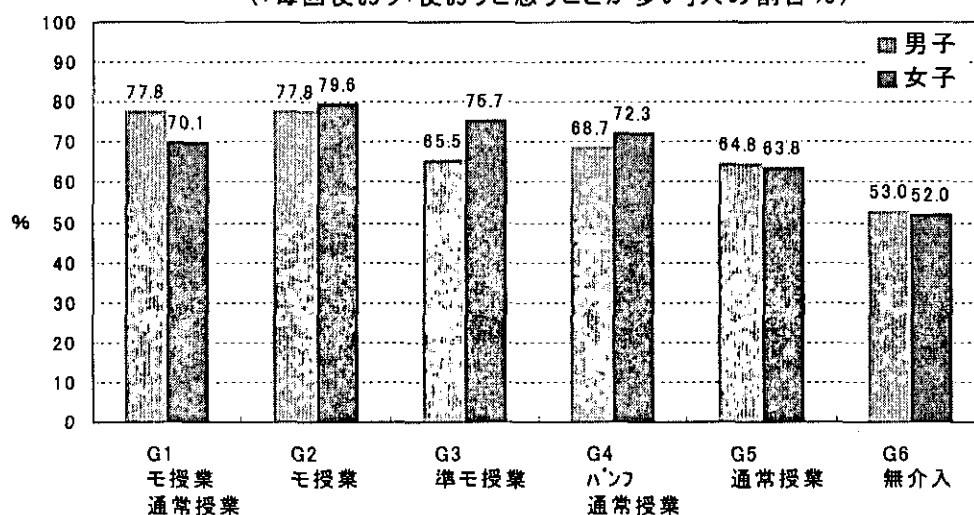


図6. 過去3ヶ月のコンドーム使用意図(介入後:高校2年生)
(「毎回使おう+使おうと思うことが多い」人の割合%)



◆過去3ヶ月のコンドーム購入経験

性経験のある高校2年生に、過去3ヶ月間のコンドーム購入経験を尋ねた。性経験者のうち過去3ヶ月にコンドームを購入した人の割合%を性別介入群別に介入の前後で比較したものを表10に示す。そのうち、介入前後の差を性別介入群別に図7に示した。G1~G3のモデル授業群(G1:モデル授業+通常授業、G2:モデル授業、G3:準モデル授業[パンフレット配布なし])では、男子では8~18%の購入率の上昇が観察されたが、女子では2~13%の上昇であった。G6の非介入群では女子で13%上昇したが男子では変化がなかった。一方、G5の通常授業のみの学校群では男子では12%程度の上昇であったが、女子は変化がなかった。さらに、介入後のコンドーム購入率を性別介入校別に図8に示した。それによると、過去3ヶ月間にコンドームを購入した人の割合は女子では2~3割で大きな差はないが、男子ではG6の無介入校では4割、通常授業群で5割、モデル授業群では5~7割であり、介入効果に対応する傾向を示し、女性の群間差は有意であった(男 p=0.15、女 p=0.04)。

表10. 過去3ヶ月間のコンドーム購入経験率の比較

	男子			女子			
	事前	事後	差	事前	事後	差	
G1	人数 66	71		人数 138	133		
	購入経験%	43.9	62.0	18.1	21.7	33.8	13.3
G2	人数 17	18		人数 53	50		
	購入経験%	58.8	66.7	7.9	28.3	26.0	-2.3
G3	人数 28	29		人数 133	112		
	購入経験%	39.3	48.3	9.0	20.3	22.3	2.0
G4	人数 61	68		人数 145	120		
	購入経験%	50.8	58.8	8.0	26.2	29.2	3.0
G5	人数 206	175		人数 228	226		
	購入経験%	40.8	53.1	12.3	18.9	19.9	1.0
G6	人数 35	34		人数 27	25		
	購入経験%	34.3	35.3	1.0	11.1	24.0	12.9

図7. 過去3ヶ月間のコンドーム購入率の変化(高校2年生)

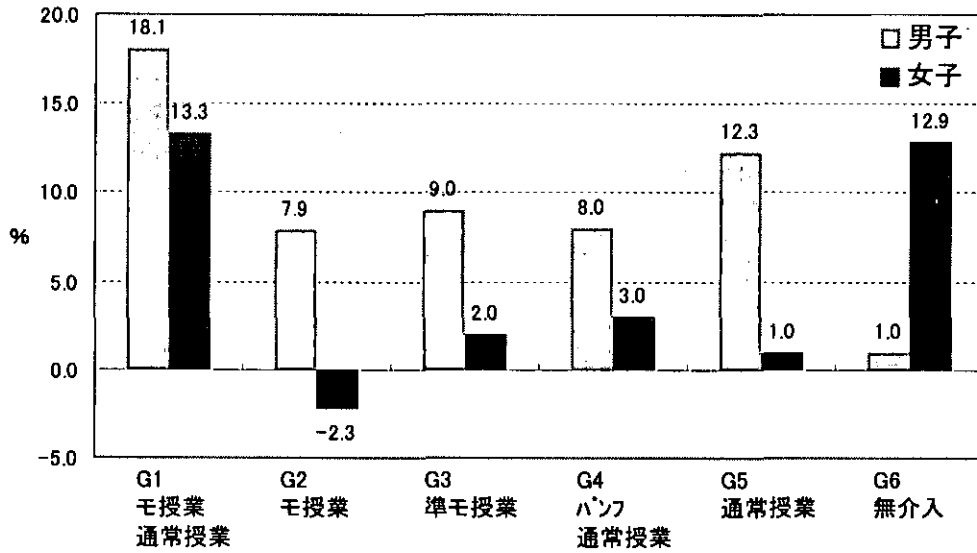
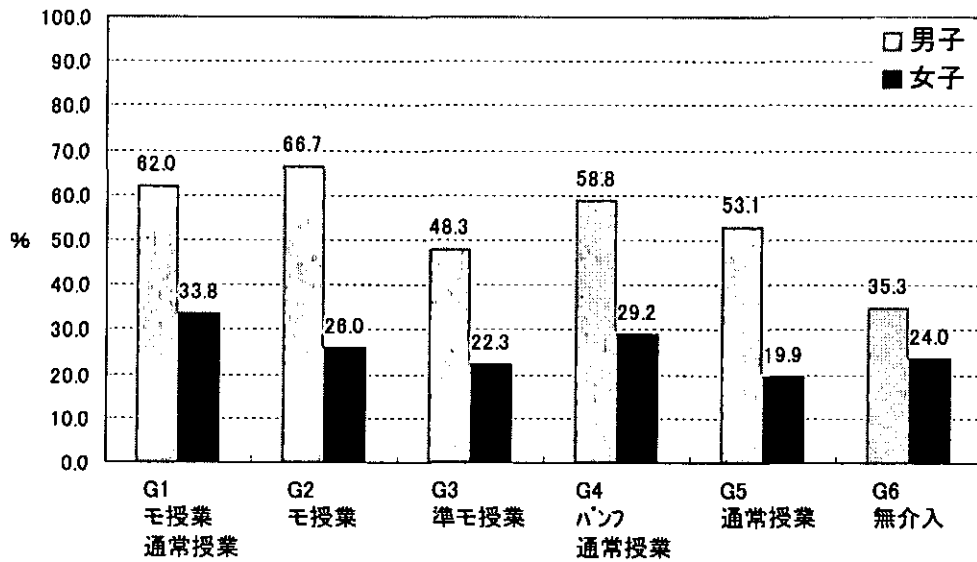


図8. 過去3ヶ月間のコンドーム購入率(介入後: 高校2年生)



◆一番最近のセックス時のコンドーム使用率

性経験のある高校2年生に、一番最近のセックス時のコンドーム使用の有無を尋ねた。性経験者のうち一番最近のセックス時にコンドームを使用した人の割合(%)を性別介入群別に介入の前後で比較したものを表11に示す。そのうち、介入前後のコンドーム使用率の差を性別介入群別に図9に示した。G1~G3のモデル授業群(G1:モデル授業+通常授業、G2:モデル授業、G3:準モデル授業[パンフレット配布なし])では、男子では2群で15%の使用率の上昇が観察されたが、女子ではほとんど変化がなかった。G6の非介入群では女子で7%上昇したが男子では10%の減少であった。一方、G5の通常授業のみの学校群では男女とも変化が見られなかった。全体に男子については介入効果に対応する傾向が認められた。さらに、介入後のコンドーム使用率を性別介入群別に図10に示した。それによると、一番最近のセックス時にコンドームを使用した人の割合は、G6の無介入校群では約5割、G5の通常授業群で6割、G1~G3のモデル授業群では7~8割であり、介入効果に対応する傾向を示した(男 p=0.09、女 p=0.24)。

表11. 一番最近のセックス時のコンドーム使用率の変化の比較

	男子			女子		
	事前	事後	差	事前	事後	差
G1	人数 60	73		134	134	
	使用率 71.7	71.2	-0.5	60.4	64.9	4.5
G2	人数 16	19		50	51	
	使用率 68.8	84.2	15.4	74.0	70.6	-3.4
G3	人数 22	31		122	117	
	使用率 59.1	74.2	15.1	70.5	69.2	-1.3
G4	人数 57	70		143	125	
	使用率 68.4	61.4	-7.0	65.0	64.8	-0.2
G5	人数 190	181		222	229	
	使用率 61.1	63.5	2.4	57.2	59.4	2.2
G6	人数 25	34		23	26	
	使用率 60.0	50.0	-10.0	43.5	50.0	6.5

図9. 一番最近セックス時のコンドーム使用率の変化(高校2年生)

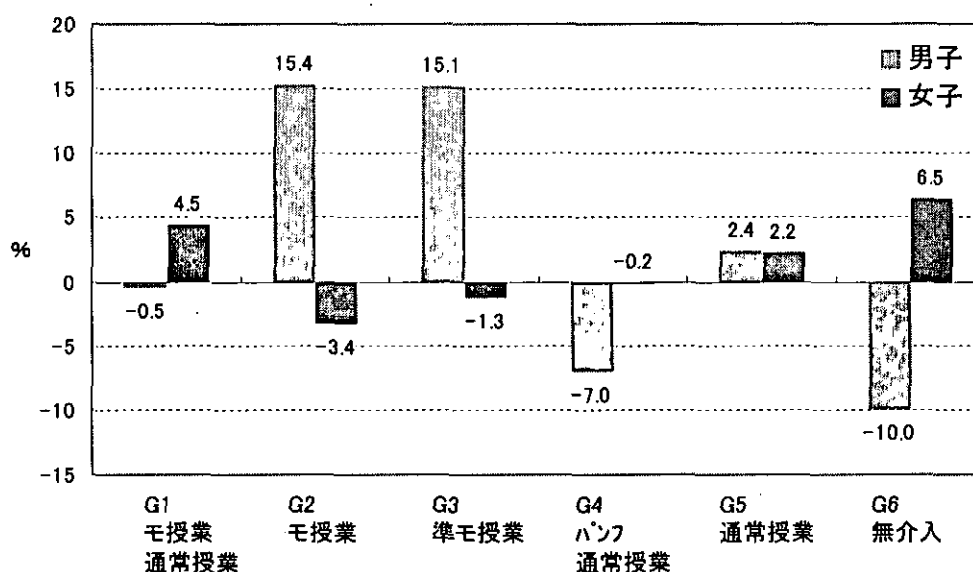
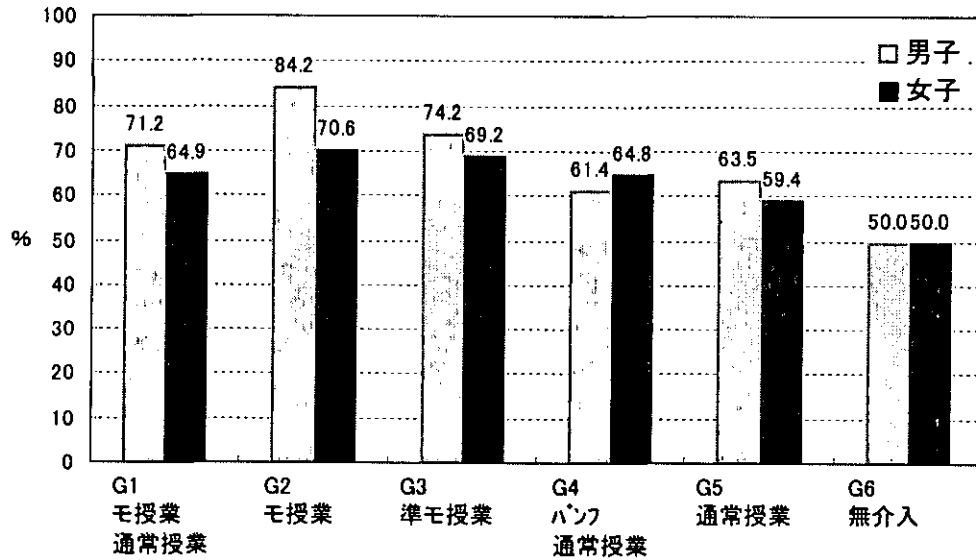


図10. 一番最近セックス時のコンドーム使用率(介入後:高校2年生)



(3) 性意識

◆セックスを拒否する自信

性経験の有無に関わらず全ての高校2年生に、「つきあっている人から“セックスしよう”と言われたら、“嫌だ”と言えますか」と尋ねた。「嫌ではないので断らない」の選択肢も入れて、「嫌だけれども絶対言えない」から「嫌だと絶対言えるまで」の4段階でセックスの誘いを拒否する自信の強さを調べた。「嫌だと絶対言える」、「嫌だと言える」人の割合(%)を介入前後で性別介入校群別に表12に示し、「嫌だと絶対言える」+「嫌だと言える」を合計した割合の介入前後の差を図11に示した。男子では約半数が「嫌ではないので断らない」群であるので、女子の変化に注目すると、G1~G3のモデル授業群でセックスを拒否する自信を持っている人の割合が3~5%上昇したが、無介入群G6では、2%の上昇で、通常授業群G5では変化はほとんど観察されず、介入効果に対応する傾向を示した。

表12. セックスを拒否する自信の変化の比較

	男子			女子			
	事前	事後	差	事前	事後	差	
G1	n	406	400	479	460		
	嫌だと言える	5.2	9.2	4.0	24.4	29.6	5.2
	嫌だと絶対言える	2.7	1.3	-1.4	12.3	11.7	-0.6
	合計	7.9	10.5	2.6	36.7	41.3	4.6
G2	n	65	63	292	279		
	嫌だと言える	9.2	6.3	-2.9	21.9	28.3	6.4
	嫌だと絶対言える	1.5	1.6	0.1	19.2	16.1	-3.1
	合計	10.7	7.9	-2.8	41.1	44.4	3.3
G3	n	186	178	519	491		
	嫌だと言える	8.6	12.9	4.3	25.4	31.6	6.2
	嫌だと絶対言える	3.8	2.8	-1.0	12.7	11.4	-1.3
	合計	12.4	15.7	3.3	38.1	43.0	4.9
G4	n	386	370	570	514		
	嫌だと言える	8.3	8.4	0.1	28.1	31.1	3.0
	嫌だと絶対言える	1.6	2.4	0.8	14.4	13.6	-0.8
	合計	9.9	10.8	0.9	42.5	44.7	2.2
G5	n	976	939	860	834		
	嫌だと言える	9.8	10.0	0.2	27.2	28.7	1.5
	嫌だと絶対言える	3.3	3.7	0.4	11.7	11.0	-0.7
	合計	13.1	13.7	0.6	38.9	39.7	0.8
G6	n	249	239	85	81		
	嫌だと言える	6.8	8.8	2.0	22.4	19.8	-2.6
	嫌だと絶対言える	2.8	1.3	-1.5	11.8	16.0	4.2
	合計	9.6	10.1	0.5	34.2	35.8	1.6

図11. セックスを拒否する自信の変化(高校2年生)

